

第4回インドネシア バンタルグバン地区学校支援活動報告 (2015 年 3 月)

Cube 代表 藤田 恵奈 (教育学部 3 回生)



私たちはインドネシアブカシ市にある首都圏の廃棄物が集積する地区、バンタルグバンで子どもの夢の選択肢を増やすことを理念に活動している。

同地区には、結婚証明書、出生届と取得にお金がかかるため、住民登録証を持っていない家庭が多く、公教育を受けることができない子どもが多い。そのような子どもたちに教育機会を提供することを目的として現地有志が設立した教育施設がアルファラー学校である。私たちはここを活動拠点としている。「学校が変われば地域が変わる」と

いう考えのもと、この学校に通う子供、その保護者、教師の3者にアプローチしている。

2013年9月から始まった私たちの取り組みは今回で4回目となった。以下でその活動報告をする。

<第4回渡航 2015年3月12日～3月15日 スケジュール>

3月12日(木)	ダルマプルサダ大学との事前打ち合わせ	
3月13日(金)	夢プロジェクト	日本文化紹介企画
3月14日(土)		菜園企画
3月15日(日)		アート企画
3月16日(月)	ダルマプルサダ大学との企画フィードバック	

3月12日(木)はダルマプルサダ大学日本語学科の学生との事前打ち合わせが行われた。彼らは主に、私たちがアルファラー学校にて企画を進めていく際に通訳だけでなく、同じ企画実施者として活動する大切なパートナーである。この日の打ち合わせでは、私たちが日本で半年間準備を進めてきた企画内容を紹介し、当日の動線を確認した。

3月15日(月)にはアルファラー学校での活動についてのフィードバックが行われた。今後の活動に活かせるよう、活動の感想や反省点を出し合い改善策を考えるなどした。



<アルファラー学校での活動 3月 13日～15日>

<夢プロジェクト>

内容：将来の夢と向き合う機会の提供
対象：中学生（19人）

3日間に渡り、クイズ、グループワーク、キッサニアへの遠足、講演会、発表会が実施された。このプロジェクトを通して生徒たちは社会にはたくさんの仕事、選択肢があるということを知り、自分が社会で働くイメージを育んだ。最終日の夢発表会では親、教師、下級生が見守る中、①自分の将来の夢、②目指す理由、③これから頑張りたいことをスピーチした。

※一般財団法人共立国際交流奨学財団様から平成26年度「国際ボランティア支援基金」の支援対象事業に選定していただき、プロジェクトが実現した。



<アート企画>

内容：粘土で創造力を豊かにする
対象：小学校3,4年生（約20人）

図画工作というアルファラー学校にはなかった新しい形の教材を取り入れた。今後も継続して取り組むことで、子どもたちの自由な発想力、表現力を伸ばす。

<日本文化紹介企画>

内容：着物文化、茶道文化の紹介
対象：保護者、学校教員（計16人）

文化体験の中で、「着る、見る、味わう、触れる、聞く」など、全身で日本を感じてもらった。参加者は積極的に質問するなど、日本に対する興味を示してくれた。



<菜園企画>

内容：植物の育て方を教える
対象：小学5,6年生（約20人）

紙芝居を用いて植物の育て方を教えた後、プランターにきゅうりと唐辛子の種をまいた。水やりカレンダーや当番表も作成し、子どもたちが自主的に責任をもって育てるような工夫をした。



この学校に関わり始めて3年目になり、自分たちの活動上の想定幅が広がり、現地の環境、文化に合わせた企画が出来るようになってきた。資金面では財団に支援してもらえるなど、成長が見受けられた第4回渡航となった。

次は本年8月に渡航を予定している。Cubeとバンタルグバン地区の更なる信頼構築をはかっていきたい。

